

授業概要

本科目では、保育士・幼稚園教諭として「こころ」と「からだ」の健康維持・発達を促す教育としての運動あそびを指導・援助できるように、幼児期に身に着けたい基本的な動きを「移動系」「平衡系」「操作系」「非移動系」に分け、様々な動きを経験する。幼児が楽しく意欲をもって活動をし、充実感や満足感が味わえるように、環境や方法を工夫した運動を指導・援助できる能力を養うことを目的とする。また、実践力を養うために、グループで教材研究や運動の指導計画を作成しロールプレイを行う。

授業計画

第1回	オリエンテーション、子どもの生活と運動について <講義>
第2回	発達の順序性と動き（初歩的な運動の段階）
第3回	移動系の動き①（歩く、走る、跳ぶ、止まる等）
第4回	移動系の動き②（跳び箱、器具や用具を用いる運動）
第5回	平衡系の動き①（マット）
第6回	平衡系の動き②（平均台等）
第7回	操作系の動き①（縄跳び、器具や用具を用いる運動）
第8回	操作系の動き②（身近な素材を使ったあそび）
第9回	非移動系の動き（鉄棒、押す、引く、支える等）
第10回	戸外あそび
第11回	サーキットあそび①（動きから）
第12回	サーキットあそび②（物語から）
第13回	実技テスト
第14回	運動会の意義 <講義>
第15回	水遊びについて、運動あそびの安全管理と応急手当 <講義>
第16回	まとめ

到達目標

- ・ 幼児の発達特性と運動内容を理解し、幼児期に身につけるべき運動スキルを体系的に理解できる。
- ・ 環境や方法等を工夫し、運動あそびを変化・発展させることができる。
- ・ 幼児の運動時の安全に対する配慮ができるようになる。
- ・ 自他の動きの観察を通して、適切な身体の動かし方や技能の習得過程を判断できる。

履修上の注意

- ・ 講義の指定がある時以外は実技である。運動をするのに望ましい服装・身だしなみで受講すること。室内用の運動靴を履くこと。
- ・ 遅刻は、やむを得ない場合 20 分以内で認めることがある。それ以降は欠席とする。遅刻は 3 回で欠席 1 回と同様の扱いをする。
- ・ 講義、実技を問わず筆記用具を持参すること。

予習復習

予習：シラバスを確認し、自身の生活や子どもの生活を観察しイメージを膨らます。
 復習：授業内容をノートにまとめる。

評価方法

授業内課題への取り組み、授業態度等の平常点50%。実技課題30%。レポート20%。

テキスト

文部科学省『幼稚園教育要領』
 プリントを配布する。

【参考文献】

前橋明『0歳～5歳児の運動あそび指導百科』ひかりのくに、2004